

SUMS News



令和3年度入学式を挙行了しました

4月2日(金)白子キャンパス講堂において、令和3年度入学式を行い、学部664名、大学院24名の学生が新たな一歩を踏み出しました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、午前・午後の2部制で規模を縮小し、入学生と一部の教職員のみの参加とし、マスクを着用し、アルコール消毒を済ませ、式に臨みました。

豊田長康学長は「医療・福祉のスペシャリストには、高度な専門的知識や技能を修得することが大切ですが、それだけでなく、病者を思いやる温かい心や高い倫理観を養い、社会に対する広い視野が求められています。本学の教育の理念『知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成』、そして、それを具体化する5つの教育目標が目指すのは、まさにそのような人材の育成です。本日入学された皆さん全員が、今まさに、国民が求めている『知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリスト』に成長していただくことを期待します」と式辞を述べました。

また、高木純一理事長は祝辞で「今年は満開の桜のもと、講堂で入学式を挙行することができ、本当に嬉しい限りです」と語り、「大学でクラブ活動・ボランティア・アルバイト・旅行など大いに青春を謳歌し、生涯の友達を作ってください。そして初心を忘れずに『大いに勉強する』ことも青春を謳歌することの一つに加えてください。『よく学び、よく遊べ』は英語の諺“Work while you work, play while you play.”を明治時代に翻訳したものだそうですが、『学ぶときは一生懸命学び、遊ぶときは思いきり遊べ』とすることです。医療や福祉が重要なのは、コロナの時代ばかりではありません。これから先、日本は世界が経験したことがない、3人に1人が高齢者という超・超高齢社会に突入します。医療や福祉は社会にとってますます重要なものになります。どうか初心を忘れず『よく学び、よく遊べ』の精神で、本学でしっかり学び、日本の未来を支える医療・福祉のスペシャリストになってください」と激励の言葉を贈りました。

午前は保健衛生学部鍼灸サイエンス学科の山本真凛さんが、「これからの社会を明るく照らせるような医療・福祉のスペシャリストを目指し、努力を惜しまずに日々尽力します」と宣誓し、午後は医学部医療健康データサイエンス学科の伊藤龍斗さんが「鈴鹿医療科学大学の学生として誇りを持ち、実りある学生生活を送るために努力を惜しまず、勉学に励むことを誓います」と宣誓しました。

＜建学の精神＞
科学技術の進歩を真に
人類の福祉と健康の向上に役立たせる

＜教育の理念＞
知性と人間性を兼ね備えた
医療・福祉スペシャリストの育成

- ＜教育目標＞
- ① 高度な知識と技能を修得する
 - ② 幅広い教養を身につける
 - ③ 思いやりの心を育む
 - ④ 高い倫理観を持つ
 - ⑤ チーム医療に貢献する



高木純一理事長



豊田長康学長



＜庶務課＞

新学科「医療健康データサイエンス学科」の第1期生が入学

医用工学部 医療健康データサイエンス学科長 鶴岡 信治

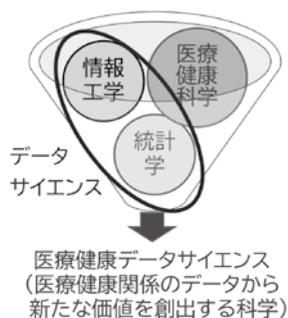
医療健康データサイエンス学科が、医用情報工学科を改組し、2021年4月に開設されました。4月1日には第1期生の新入生学科別オリエンテーションが開催され、新入生44名の全員が集まりスタートしました。

医療健康データサイエンスは、新しい学問で、医療健康科学の分野で使用される各種データにデータサイエンスの手法（人工知能（AI）、IoTなどの情報工学と統計学など）を適用し、新たな価値を創出する科学で、社会を変革（イノベーション）する期待が高い実践的な学問分野です。

最近の医療では「根拠データ（エビデンス）に基づく医療（EBM）」の有用性が多くの事例で示され、個々の患者にとって適切な診断や治療を提示し、合意を得ること（インフォームド・コンセント）が求められており、データ分析できる人材が不足しています。またAIの社会での利活用はめざましく、自動運転、ワクチン開発、フィンテック、自動翻訳などの研究成果がデジタル社会への変換（DX）の推進力になっています。

新学科は学生と教員が協力し、超高齢社会、持続可能な開発目標（SDGs）などの様々な社会課題に対して、データサイエンスの手法を使用し、新たな課題解決方法を研究開発し、新時代のリーダーを育成することを目指し、実行力のある学生を育成することを目指します。

このような人材を育成するには、幅広い分野の方々の連携が必要で、多職種との連携を推進し、教育研究を実施する必要があります。皆様のご指導・ご協力をお願いします。



学生寮「国家試験頑張っ！食事会」「学生寮新入生歓迎会」を行って

学生寮の学生を対象に、さまざまな催しを行い寮生の交流を深めています。国家試験を目前に控えた4・6年生を激励する「国家試験頑張っ！食事会」を毎年開催していましたが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響で、1月26日(火)にお弁当及び応援メッセージの配布を行い40名の寮生が参加しました。メッセージには、下級生からは「自分を信じて、落ち着いて挑んでください」というエールや体調を気遣うコメントが、4・6年生からは国家試験に対する抱負や下級生へのアドバイスが贈られました。また、高木久代副学長の激励のお言葉もあり、一人ひとりが寮母さんから温かいお言葉を頂く様子もみられました。プレッシャーの日々を過ごす皆さんの励みになれば幸いです。



また4月2日(金)には「学生寮新入生歓迎会」を開催しました。新入寮生と先輩寮生がより多く触れ合えるように、毎年この時期に開催しています。歓迎会では、感染症防止策を徹底したうえで、寮生の自己紹介とお弁当の配布を行いました。寮生全員が顔合わせをし、自己紹介を行って行く中で、最初は緊張していた新入生は次第に笑顔が溢れ、安心した表情に変わっていきました。高木副学長や寮母さんからも歓迎の挨拶を頂き、新入寮生12名が新たな寮生活のスタートを切ることができたのではないのでしょうか。

<学生課>

放射線技術科学科 Facebook ページ開設

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 中舎 幸司

本学科では、2021年2月下旬にFacebookページを開設しました。現在、コロナ禍のため大学行事なども制限されていますが、このFacebookを通じて学科の特色や学科活動状況など、本学科の魅力を紹介していきたいと思っています。

本学科の実習室には臨床現場で使用する大型医療機器が数多く設置されています。我々診療放射線技師はその大型医療機器を使用して画像を取得し、医療現場で業務を行っています。Facebookではその医療機器の一つひとつの紹介や、学内実習で機器を使用して学生がどのように学んでいるかなどの様子、さらに診療放射線技師の業務についてなど、皆様に本学科また診療放射線技師の魅力についてお伝えしていきたいと考えています。まだコロナ禍でありますのでオープンキャンパスに足を運べない方々もいらっしゃると思いますのでオープンキャンパスの情報なども更新いたします。

Facebookページは大学のホームページ内にリンクもございますので気軽にご覧いただけたらと思います。良い情報を提供できるよう本学科教員一同でFacebookページを盛り上げていきたいと思っています。定期的に更新してまいりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

受賞のご報告

2021年度日本薬学会・第44回佐藤記念国内賞

副学長（大学院・研究担当） 鈴木 宏治



この度、本学の大井一弥 薬学部長による「ヒト皮膚における乾燥皮膚発現要因と治療法に関する研究」に対して、2021年度日本薬学会・第44回佐藤記念国内賞が授与されました。

佐藤記念賞には、隔年に米国の医薬化学者に授与される国際賞と、毎年我が国の薬学研究者に授与される国内賞があります。日本薬学会では学会員の中から、主に我が国の医療現場で行われたヒトを対象とする臨床・疫学研究などにおいて優れた業績をあげ、医療の発展に貢献している薬剤師・臨床薬学研究者に本賞を授与しています。

大井薬学部長は、様々な皮膚疾患の原因となる乾燥皮膚の発生要因の解明と治療法を開発するため、長年にわたり透析患者や高齢患者を対象として5つの医療機関と共同研究を行ってきました。その結果、乾燥皮膚は、加齢や湿度低下などの影響だけでなく、様々な疾患由来の生化学的因子および微量元素などの変動によることを明らかにしました。本研究成果は、基礎研究を織り交ぜながら皮膚薬科学に特化した臨床研究を自ら開拓し継続した賜物であり、今後の薬剤師研究者に多くの示唆を与えるものであります。

この度の大井薬学部長の受賞は、本学の臨床薬学研究のレベルの高さを国内外に示すものであり、引き続き本学の教員や卒業生、在校生の中から後に続く優れた臨床薬学研究者が輩出されることを願っています。

「みえの防災レシピコンテスト」大賞

保健衛生学部 医療栄養学科 助教 若杉 悠佑

令和2年度「みえの防災レシピコンテスト」（三重県主催）が開催され、医療栄養学科 管理栄養学専攻4年（令和2年度卒）の堀江美佑さんが「みえの防災レシピ大賞」を受賞しました。

このコンテストは、県民が日ごろからローリングストック*を意識した調理を実践することで、日常生活における調理の面から「防災の日常化」を推進することを目的としたものです。堀江さんは、三重県の郷土料理「あいませ」を高野豆腐、切り干し大根、干しいたけなどの備蓄可能な食品を使用し、もどし汁を料理に利用するなど少ない水で調理する防災レシピを考案しました。「あいませ」は、味、見た目、栄養価が良く、昔から地元で親しまれている郷土料理をアレンジしている点が評価され、149レシピの中から大賞を受賞しました。

災害時の避難生活では、電気・ガス・水道といったライフラインが使えない、物流が寸断されるなど、日常の食生活を送ることが困難となることが想定されます。そこで、いざという時に備えて食品を備蓄するとともに、備蓄食品の調理法や食べ方を考えておく必要があります。また、食べ慣れたものを食べることは、災害時のストレスを軽減するといわれており、日常の食生活にも活用できる防災レシピの開発は、災害への備えとして重要であると考えられます。



管理栄養士には、災害時における救援活動が求められており、本専攻でも、災害時の栄養・食生活支援に対する教育に取り組んでいます。

■ レシピ集、調理動画が三重県のホームページに掲載されています。

URL： <https://www.pref.mie.lg.jp/BOSAI/HP/m0100400053.htm>

*日常の中に食料備蓄を取り込むという考え方。普段から少し多めに食品を買っておき、使った分を買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法。

<管理栄養学専攻>

令和2年度 実験動物感謝式

動物実験施設運営委員会 委員長 三浦 俊宏

令和2年度の実験動物感謝式を3月10日（水）に千代崎キャンパス実験動物施設横の動物慰霊碑前に行いました。昨年は中止となりましたが、今回は新型コロナウイルス感染症防止のため私と事務職員の少人数で行いました。

令和2年度に犠牲となった実験動物数は、マウス854、ラット303、鶏胚170、モルモット2匹の合計1,329匹でした。これは昨年より1,107匹の減少です。この原因としては、やはりコロナ禍の影響で実験・実習を縮小したためと思われる。また、年間承認件数は、新規19件、継続6件となっています。

本学では動物愛護の精神に基づき、動物に無用の苦痛を与えないように細心の配慮を行っています。動物実験に関する講習会を必修とし、また実験計画が本学で定めた動物実験指針に適合しているかを厳正に審査しています。（動物実験指針および動物実験倫理委員会規程は本学ホームページで公開しています。）



ピンクリボン活動 実施報告 –乳がん検診啓発マスクケースの寄付–

ピンクリボン活動部 顧問（放射線技術科学科 准教授） 北岡 ひとみ

新型コロナウイルスの影響によりイベントなど活動が困難であり、中でも乳がん検診の受診を促進する活動の灯を消してはいけないうと、この時期だからこそ何度も使用するであろうマスクケースを通して、学生たちがデザインしたマスクケース1000個とチラシを作製しました。マスクケースには「乳がん検診 あなたとあなたの大切な人のために」とのメッセージを添えました。

ピンクリボン活動部1~4年生の約50名の学生が心を込めて作業を行い、3年生(現4年生)の代表者と共に2月12日(金)に鈴鹿市検診施設の中京サテライトクリニック三重に250個、2月17日(水)に鈴鹿市健康福祉部に500個を届けました。受診者さんや市民の方に配布していただくことをお願いし、クリニックの係長や診療放射線技師の先生方、鈴鹿市健康福祉部 健康づくり課長や職員の方々にはしっかり説明をして交流等を持つ機会も頂きました。

また、中日・読売・伊勢新聞社の取材も受けました。将来、医療従事者になる学生たちにとって、計画から寄付までを通して非常に良い経験になったと思います。以下は、学生の感想です。



- ◆今の状況で出来ることを考え、マスクケースを作製しました。これからも工夫して出来る範囲で乳がん検診の大切さを広める活動を継続したいです。【3年 稲場新菜・井本成美・井上陽香】
- ◆鈴鹿市保健センターに寄付させて頂きました。鈴鹿市の健康づくり課長のお話で、鈴鹿市保健センターでも新型コロナウイルスの影響で健康推進のイベントなどが減少している中、訪れた当日も乳がん検診を行っていると同じました。今回寄付したマスクケースをそのような場でも配布して頂けたら鈴鹿市民の多くの方に伝わると感じました。今回の活動を通して改めて乳がん検診の大切さを知りました。【4年 坂本里織・鈴木詩乃・山本みらの】
- ◆中京サテライトクリニック三重に訪れて寄付させて頂きました。実際に検診に訪れる受診者さんに手に取ってもらうことで、男女問わず多くの方に乳がん検診について知ってもらえるきっかけになると思いました。沢山の方に乳がん検診の大切さが伝わり、乳がん検診に行く人が増えれば良いなと思います。【4年 林玲奈・中津遼香・濱浦舞香・奥田七聖（部長）】

桑名市社会福祉協議会より寄贈していただきました

保健衛生学部 医療福祉学科 助手 福田 佳奈

2月24日(水)、社会福祉法人桑名市社会福祉協議会の地域福祉活動の一環である「新型コロナウイルス感染拡大の影響による生活困窮者への支援」として、生活に困窮する学生向けに食料品40セットを寄贈していただき、贈呈式を行いました。

贈呈式では、桑名市社会福祉協議会の山中啓圓会長より森下芳孝副学長（学生・社会貢献担当）へ食料品40セットが贈呈され、森下副学長より感謝状をお渡しさせていただきました。

桑名市社会福祉協議会では、新型コロナウイルス感染症拡大の第3波において生活に困窮されるご家庭が増える懸念があるなか、株式会社ヤマモリ様より炊き込みご飯（地鶏釜めしのもと）150箱分の寄付、また、三重北農業協同組合様の他多くの方々からご寄付やご協力があり、それらに基づいた贈呈となったとのこと。



今回本学への寄付については、昨夏、桑名市社会福祉協議会で医療福祉学科3年生が社会福祉士相談援助実習を行う機会があったことから、「本学学生で生活に困窮する学生をぜひ支援をしたい」との心温まるお声掛けをいただき、食料品寄贈の運びとなりました。なお、セットには、釜めしのもと、お米、パスタ乾麺、ふりかけ、乾パンなどが詰められていました。寄贈の品は、学生課で検討の上、生活に困窮する学生に配布していただくこととなりました。桑名市社会福祉協議会様に感謝申し上げます。

〈学生課〉

薬学研究科 第6回課題研究中間成果報告会および 第4回学位論文発表会を開催

医療科学研究科 薬学研究科長 飯田 靖彦

1月21日(木)白子キャンパスにて、薬学研究科の第6回課題研究中間成果報告会および第4回学位論文発表会を行いました。

まず午前中に大学院2年生の那須隆斗さん、佐藤雅也さんの2名が課題研究の中間報告を行い、次いで午後には大学院4年生の宮崎翔平さんが博士論文研究を発表しました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で研究の遂行に苦慮する中、限られた時間内に研究をまとめ、各々非常に興味深い研究成果を発表しました。特に4年生の宮崎さんは、大学全体が自粛となる中でただでさえ困難なまとめの作業を計画的に進め、発表会当日までに学位論文をしっかりと仕上げ堂々たる発表でした。



午前中の中間成果報告会では、那須さんが「中枢神経変性におけるTAGE化タンパク質の探索とその機能解明に関する研究」について、佐藤さんが「高血糖の認知機能への影響に関するトランスレーショナルリサーチ」について報告しました。両者はいずれも「糖尿病と認知症」をテーマとしており、前者は糖尿病における認知症の発症過程を調べる基礎研究、後者は高血糖と認知機能障害の関連を調べる臨床研究と、互いの研究が一つに繋がる興味深い内容でした。午後の学位論文発表会では、宮崎さんが「不安高感受性ラットにおけるエゾウコギエキス及びその含有成分の抗不安作用に関する研究—行動及び自律神経活動に基づく薬理的検討—」の論文題目で発表を行いました。よく計画された実験から、得られた成果を短い時間の中でわかりやすく発表しており、2年前の課題研究中間成果報告会で明らかとなった問題が適切に改善された内容でした。本年度の2年生も、2年後には今回指摘された課題を見事にクリアして報告するものと期待しています。全ての参加者が時間を超えて討論する本学の学位に相応しい発表会となりました。

本研究科では「高度な薬学領域での専門能力を発揮して医療に貢献するとともに、自立して研究する能力を備えた臨床薬剤師及び臨床における創薬・育薬を担う人材としての研究者及び教育者の要請を目的とする」を理念に大学院生の教育を行なっています。本年度の課題研究中間成果報告会及び学位論文発表会は、いずれも社会に貢献する研究内容であり、今後もこのような質の高い基礎、臨床研究を発信するとともに有能な人事の育成に努めていきます。

医療人底力実践展開をハイブリッド形式で実施

多職種連携教育推進委員会 医療人底力実践「展開」担当 川合 真子

3月23日(火)~25日(木)に「医療人底力実践展開」の授業を実施しました。2020年度は8学科計60名の学生が履修しましたが、新型コロナウイルス感染リスク軽減のため、それぞれの学生の希望に応じた、遠隔・対面のハイブリッド授業としました。

底力実践展開は、多職種(=多学科)からなる学科混合チームを編成し、模擬患者の抱える問題を抽出したのちに解決策(ケアプラン)を立案するワークショップとなっています。1日目は、模擬事例を題材に自職種の役割について整理する機会としており、自職種の専門性をどのように活かせるのかを学科教員とともに議論しました。2日目は、学科混合チームで模擬患者のケアプランを作成しました。チームメンバーそれぞれが専門職としての見地から提案を行い、最適なケアプランを定めました。最終日3日目は、学外の模擬患者を交えたカンファレンスを行いました。受講者にとっては初めてのカンファレンス経験ということもあり、念入りな準備のもと臨んだはずでしたが、終了後の振り返りでは多くの気づきが報告され、改めてカンファレンスの難しさと患者さんの気持ちに寄り添うことの重要性を理解するきっかけとなったようです。

今回新たに取り組んだハイブリッド形式のワークショップには独特の難しさがあり、一教員としては、やや勝ち過ぎかもしれませんが、コミュニケーションというものの本質について、学生と共に深く考えさせられる想いでした。幸いにして、授業内容に関する学生の満足度は過分なほどであり、多職種連携の重要性を実感させるという主目的は達せられたようで、今は正直なところホッと胸を撫で下ろしております。



「医療人底力実践展開」は今年度も3月下旬に実施予定です。学生・教員から意見を取り入れ、多くの学科・学生の皆様にご参加いただけるよう準備していきたいと思っております。

最後に、ご協力を賜りました担当教職員と学生の皆様に心よりの感謝を申し上げます。

COVID-19に尽きる1年を終えて

看護学部 看護学科長 郷良 淳子

2020年度は大変な1年でした。COVID-19に始まりCOVID-19で終わった感がありますが、陽性者が増えても減っても私たち個人が行うべきことは、ずっと同じであることを再確認する日々でした。しかし、人との接触を避けることは、人との交流が人格の成長や職業アイデンティティの形成に重要な意味を持つ学生にとってはとても苦痛だったようです。対面授業の際の休み時間の三密回避対策には骨を折りました。学友や教員とのスキンシップを強く求める学生たちを見ていると、人としての当然の権利を奪うこの感染症の恐ろしさを改めて実感しました。

昨年と大きく変わったのは、授業の形態です。看護学科ではこれまで全く不慣れだったオンライン授業に教員が一丸となって取り組んできました。現場での実習ができずにオンラインと学内での実習が余儀なくされる時もありましたがこちら、教員の意見交換による実習内容の充実への努力、学生の真摯な学習姿勢が継続して見られました。看護学科の教員間のチーム力の良さ、教員-学生間の関係性の確かさもまた、実感しました。4年生の看護師・保健師国家試験対策も自宅でのオンライン学習が中心となりましたが、様々な工夫を凝らし対面とオンラインのハイブリッドでの講習を続け、全員が受験し、合格できました。

ワクチン接種の日もまだ遠く、これまでと同様の対策を、教員間のチーム力、教員-学生間の確かな関係性を基盤にした努力をもって一日一日積み重ねる2021年度が新1年生とともにスタートしました。

コロナ禍における『こころの相談センター』での心理臨床実践

こころの相談センター長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 淀 直子

『こころの相談センター』は、一般の方や子どもたちを対象にした大学附属の心理相談機関であり、公認心理師・臨床心理士を目指している大学院生が、指導を受けながら実際にカウンセリングやプレイセラピーを行ないトレーニングを積んでいます。

昨年の春、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、『こころの相談センター』は閉室を余儀なくされました。2020年8月より規模を縮小して再開し、現在もマスク着用・手指消毒・健康チェックシート・検温・窓を開けての面接など、感染防止対策をしながら行っています。プレイセラピーでは感染予防のために玩具を減らし距離をとって遊び、カウンセリングではカウンセラーと来談者の方の間にはアクリル板を置いています。大学院生が心理臨床実践を行なえるのは、このような不便さや制限があるにもかかわらず継続して通って来られている来談者の方のご協力と忍耐のおかげです。もちろん大学院生の努力も大きく、感染予防に努め、プレイセラピー後は毎回使用した玩具を消毒しています。また、これまでとは異なる少ない玩具でどのように子どもたちとかわりあっていくのかを考えながら取り組んでいます。今まであたりまえに行ってきたプレイセラピーにも変更が求められていますが、模索し工夫し考えていくことを通して、心理支援において何が本当に大切なのかを学び体験していると思います。教員も大学院生とケースを担当し共に学び、そして大学院生が専門的で良質な心理支援ができるよう指導に努めていきます。

作業療法学専攻で臨床実習Ⅰ(見学)が初めて行われる

保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻長 美和 千尋

作業療法学専攻では、4年間で25単位(1000時間)の臨床実習が行われます。臨床実習25単位(1000時間)は2年生で2単位(80時間)、3年生で5単位(200時間)、4年生で18単位(720時間)が割り振られて行われます。本学で行う臨床実習1000時間は、国内の作業療法士の国家試験受験資格要件である22単位より3単位多くなっています。これには意味があります。本学を世界保健機関(WHO)によって認められた世界作業療法協会(WFOT)の認定校にしたいと思っているからです。そのため、世界に通用できるような教育水準の要件である臨床実習25単位を設定しました。

2020年度は2年生が学外臨床実習を初めて経験しています。作業療法の臨床実習は4分野(身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害)の病院施設に学生1名ないし2名配置します。この実習の目的は主に病院・施設の見学を行い、沿革や組織、役割を理解することです。今回は身体障害19施設、精神障害9施設、発達障害6施設、老年期障害10施設に実習をお願いしました。しかし、愛知県、岐阜県にコロナ感染の緊急事態宣言、三重県は独自の宣言がなされ、5名が1週間学内で学内教員による実習を行うことになりました。実習終了後には実習のまとめとしてセミナーを1日行い、実習の報告と学生へのフィードバックを行います。セミナーで学生は病院・施設での体験を生き生きと話し、学外実習が今後の学習に良い刺激になっているようです。大学では行えない現場の作業療法士や患者さんとの触れ合いが学生の意欲向上につながっていると思います。

代替授業における精神保健福祉士の耀き

保健衛生学部 医療福祉学科 助教 富田 千晶

毎年2～3月に行っている精神保健福祉援助実習（3年次）は、新型コロナウイルス感染症の影響で急遽学内実習へと切り替えました。現場実習の経験が学生にとっていかに大きな成長をもたらすのか理解している私たち教員にとって、その決断は大きなものとなりました。

担当する松原教授、福田助手、富田が何度も打ち合わせを行い、実習開始1週間前に中止の決断をするとともに、実習先への連絡や授業プログラムの作成、外部講師への依頼等、調整作業を行うことで、無事に学内実習を開始することができました。

本実習は、本来20日間（障害福祉サービス事業所8日間・精神科病院12日間＝合計150時間）の現場実習のプログラムで構成されています。果たして学内実習をゴールまで無事に到達させることができるか不安を抱えたスタートとなったものの、総勢13名の外部講師（精神保健福祉士）による講義や学生の「学びたい」という強い思いは、生きた教育の実現をもたらす結果となりました。

2020年度3月で本学を退職することになった私にとって、大学教員としての6年間の歩みはとても貴重な経験となりました。学生との学びのなかで、彼らが日々成長する過程を身近に垣間見ることができたのは私の大切な時間でした。「精神障がいを抱える人の力になりたい」「もっと学びたい」という学生の素直で真っ直ぐなまなざしを毎日感じる事ができた経験に心から感謝したいと思います。

最後に、ソーシャルワークの価値について、ソフィア・T・ブトゥリムは人間の「変化の可能性」と唱えています。私は学生たちが見事にそれを実現していく過程を見届けることができ、幸せな20日間の実習となりました。〈医療福祉学専攻〉



withコロナ時代における本学Zoomアカウントを使用した地域医療への貢献

医用工学部 臨床工学科 助教 西川 祐策

私は日本EPアブレーション技術研究会の中部地方会に世話人として参加させて頂いています。EPアブレーションとは、頻脈性不整脈の解析を行う電気生理学（EP）と治療である心筋焼灼術（アブレーション）のことを指します。不整脈のアブレーション治療において臨床工学技士は医師と同じテンポで不整脈を解析し、必要なタイミングで必要な情報を提供していきます。臨床工学技士の業務の中でも習熟に時間を要し、多くの施設で教育に難渋している背景があります。

本地方会は地域のメディカルスタッフの交流と教育を目的として令和元年に発足しました。令和2年3月に第一回の地方会開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。その後も検討を重ね、帰宅後に家事をしながらの聴講や業務後でも参加しやすい、Webカンファレンスを毎月開催していくこととなりました。Webカンファレンスの開催に私が本学で契約頂いているZoomアカウントを使用させて頂いています。



このアカウントはミーティング時間が24時間と長く、300名が視聴可能なアカウントです。2021年1月26日の第五回webカンファレンスでは97名の登録を頂いており、研究会を開催する上で必要な時間の確保に加え、人数制限においても安心できました。数回の開催で通信環境の対応も含めて順調な運営が可能となりましたので、現在は初心者も気兼ねなく質問できるWebカンファレンスの実現を目指しています。

セミナーや研究会の開催が難しい状況が続く中、教育現場の環境を生かして、本領域での医療者の教育を支援することで、地域医療へ貢献したいと考えています。

初期臨床実習で学んだこと

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 3年 幅下 樹生



2月3日(水)から5日間にわたり、私は児童発達支援センターあけぼの学園へ初期臨床実習に行かせていただきました。あけぼの学園は乳幼児のリハビリテーション・保育・支援の場です。初めての臨床体験で、子どもと関わってみて予想していた臨床像と異なっていたと感じました。今回子どもと触れ合っていて、私が言ったことを理解してくれる子どもが少なくないという事が分かりました。何らかの障害を持っていたとしても、声や行動で気持ちを表現しており、とくに表情が豊かでこちらが笑顔にさせられることも多々ありました。

小児の理学療法では、子どもが興味を持った物でそれをどのように治療に結び付けるのか、また運動やコミュニケーションの中で対象児がどのくらいの発達年齢なのか評価していくことが重要であると分かりました。訓練は、子どもに恐怖心や不安を与えないようにやさしい言葉かけや、できたら褒めるなどの気配りが必要で、これにより子どもの訓練に対する意欲や自主性の向上を促せるということも学びました。

私は、小児との触れ合いの際に視線を合わせることは意識していましたが、それだけでは子どもは心を開いてくれないということを感じました。そこで、おもちゃで興味を引いたり、明るく楽しそうに声をかけたりすることで、子どもの私への反応がより良くなったことを実習の中で感じました。そのため私は、これから患者さんと関わる時や普段の生活で、相手により印象を与えるような行動や気配りを行う事を心掛け、次の実習で患者さんに対してこれらを実践できるようにしたいと思います。

医療栄養学科 臨床検査学専攻で学位記の授与が 執り行われました —コロナ禍での就職活動—

保健衛生学部 医療栄養学科 教授 西岡 淳二

3月12日(金)全学の学位授与式終了後、医療栄養学科 臨床検査学専攻で学位記の授与が千代崎キャンパスにおいて執り行われました。

新年度4月から43名の卒業生が医療職としてそれぞれの施設で勤務します。今年度卒業生の就職活動は、4月初めからコロナ禍の影響を受け、大変な厳しさを強いられ、不安・焦りを募らせたことと思います。就活ガイダンスや担当教員との面談はZoomで実施され、医療機関からの求人数は減少し、また、採用試験の時期・形態も大きく変化しました。施設見学においては、健康記録表の提出が求められ、また、見学当日に中止になる事もありました。採用試験では、Webによる筆記試験・面接試験が採用され、これまでとは異なる準備が必要でした。



このような状況にあっても、卒業生たちは、自らの努力で情報収集し、あらゆる試験形態を想定して、できる限りの準備を持って採用試験に臨みました。その結果、殆どの卒業生は採用を勝ち取り、臨床検査技師として希望をもって新しい生活にチャレンジを始めています。コロナ禍は、今年度の卒業生にこれまでにない試練を課しましたが、一方で彼らは、これまでにない努力と経験を積み重ねました。このことが、今後、彼らが医療現場で働く中で「変化する医療に対応する力」「真の医療を考える力」になると確信できる学位記の授与でした。 <臨床検査学専攻>

附属鍼灸治療センターの卒後研修生プログラムを修了

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 12期卒業生 中根 啓・山本 遥香

私たちは2019年3月に本学鍼灸サイエンス学科を卒業し、同年4月より本学附属鍼灸治療センターの卒後研修プログラムに参加しました。2021年3月31日に2年間の研修を無事に終え、研修修了証を頂くことができました。ご指導頂いた先生方には激励のお言葉も頂き、大変嬉しく思いました。今後もより一層一鍼灸師として研鑽を重ねていきます。研修を終えての感想を紹介します。



- ◆この2年間はとても濃い卒後研修になりました。鍼灸師に成り立ての2年前は自分自身の治療知識・技術に対して不安ばかりでしたが、先生方や研修生の先輩方に鍼灸師としての在り方、多方面での治療などを学ぶことができました。そして鍼灸師としての仕事に誇りと自信を持つことができました。4月からは新しい職場で今までに学んだことを精一杯活かし、症状で悩みを抱えている多くの患者様を笑顔にできるよう励んでいきたいと思えます。貴重な2年間の研修をありがとうございました。(中根 啓)
- ◆研修では先生方から多種多様な治療や考え方をご教授頂き、学生時代に比べ臨床の知識を確実に深めることができました。また臨床では知識だけではなく患者様に対するコミュニケーション、鍼灸師としての立ち振る舞いを身につけることができ、充実した2年間を過ごすことができました。新しい職場では研修で培った知識と技術だけではなく、思いやりの心も大切に、日々精進して参ります。今まで大変お世話になりました。(山本遥香)

学生相談室通信

学生相談室長 綾野 眞理

コロナ禍とこころの健康

昨年度はコロナ禍という思ってもみなかった出来事に見舞われ、誰もが戸惑い、そして何とか日常を取り戻そうと手探りの中、過ごした1年でした。そんな中、学生相談室でも、色々な新しい試みをはじめました。まずは、SUMS-POを使った学生向けストレスチェックです。あたりまえにしていたことができなくなり、知らず知らずのうちにこころが疲れている人が数多く見られましたが、一方で、自分なりに工夫しながら頑張っている様子が伝わってきてとても頼もしく感じました。また、メールやZoomなど遠隔による相談も開始しました。相談員にとってもチャレンジでしたが、「学生相談室には行きづらいけど相談はしたい」と感じている人たちのためにも、今後も続けていきたいと考えています。

2月から日本でもワクチン接種が始まりましたが、世界を見回すとまだまだ安心できる状況ではありません。このように長く続く辛い状況は私たちの心身の状態に影響を与え続けます。1日24時間、こころやからだが無意識のうちに緊張している、今はそんな感じかもしれません。時には緊張を弛めて、こころとからだをリフレッシュする時間が必要です。学生相談室は、みなさんにとって、安心できる場でありたいと思っています。

新任教職員のご紹介



救急救命学科設立準備室長 教授 鈴木 哲司

保健衛生学部救急救命学科設置準備室の教員として着任いたしました。令和4年4月に保健衛生学部救急救命学科の設置を目指して準備を進めております。私のいままでの臨床経験・教育・研究を通じて培われた「生命の賞相」とは何か？について学生に伝えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療栄養学科 助手 秋永 桃直

本年4月より医療栄養学科管理栄養学専攻の助手に着任しました。これまでは一般企業の方に事務として働いていました。管理栄養士としての実績が少ないので至らない部分が多いとは思いますが、これからは学生の皆さんと先生方の架け橋になれるよう頑張ります。ご指導の程、よろしくお願い致します。



保健衛生学部 医療栄養学科 助手 中村 愉紀

本年4月より医療栄養学科の助手として着任しました。大学を卒業後、臨床および検診の場で臨床検査技師として経験を重ねてきました。その中で超音波検査に携わることが長く、心臓・頸動脈・甲状腺・乳腺・腹部領域を経験し、特に乳腺超音波に興味を持ち知識・技術の習得に努めてまいりました。これから医療従事者を目指す学生の皆さんの力になることができるよう努力していきますので、ご指導よろしくお願い致します。



保健衛生学部 医療福祉学科 教授 大橋 明

4月より医療福祉学科臨床心理学専攻に着任しました。専門は高齢者心理学です。昨年度までは大学で看護師、理学療法士、社会福祉士、精神保健福祉士など医療と福祉の専門家を目指す学生の養成に関わりつつ、学生相談を担当してきました。学生たちには好奇心と執念をもって学問に向き合ってもらえるように関わっていきたくと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 合田 盛人

本年4月より医療福祉学科に着任いたしました。主に精神保健福祉士養成を担当させていただきます。研究テーマは「環境保全型農業を活用した農福連携」です。福祉現場でのソーシャルワーカーとしての経験やこれまでの教育研究を活かして、地域共生社会の実現に向けて貢献できる福祉人材の育成に精進努力したいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。



保健衛生学部 医療福祉学科 助教 佐脇 幸恵

本年4月より保健衛生学部医療福祉学科の教員として着任いたしました。昨年度まで日本福祉大学に勤務し、社会福祉士の養成に携わって参りました。専門は社会福祉学です。これまでの経験を活かしつつ、知識としての社会福祉だけでなく、自分自身を含めたすべての人の幸福を実現するという視点をもって、学生教育・研究・社会貢献に努めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 医療福祉学科 助手 平谷 智生

本年4月より医療福祉学科の助手として着任いたしました。これまでは本学の学生相談室や相談センターで勤務しておりましたので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。本年度から立場は変わりますが、引き続き学生や院生の皆さんの力になれるように努めて参ります。私自身もまだまだ若輩者ですが、皆さんと一緒に実践者・研究者として成長していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 宮脇 太朗

2021年4月より鍼灸サイエンス学科に着任いたしました。これまでは多職種連携をとれる職業人の育成を目標とした教育・臨床等業務を行ってまいりました。学生が自身の職業について深められると同時に多職種連携を行える人材へと成長できるよう、これまでの知識や経験を活かし、その学びの礎となれる教育・臨床・研究を行っていきたくと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助手 王 桂鳳

私は中国出身で、中国では中医師、漢方薬剤師です。15年前来日し本学の鍼灸学部で学び、日本の鍼灸師国家資格も取得しました。また、本学大学院で修士の学位を取得しました（現在は三重大学医学系研究科に在学中です）。その後、桜の森白子ホームで鍼灸師として5年半勤めました。本年4月から鍼灸サイエンス学科の助手として着任しました。これまでの経験を、東洋医学全般の教育と研究に生かしていきたいと思っております。



薬学部 薬学科 准教授 黄 燦 達人

本年4月より薬学科に着任しました。これまでは、金沢大学薬学部において教育・研究に取り組んで参りました。本学では、化学計算や国家試験対策の講義を担当させていただきます。分かりやすく実のある講義を心がけ、本学の教育（薬剤師養成や資質向上）のさらなる充実に寄与すべく努めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



薬学部 薬学科 准教授 藤原 朋也

本年4月より薬学部薬学科に着任しました。3月までは富山大学薬学部にて「薬づくり」に役立つ有機化学の教育・研究に従事してきました。本学では、これまでに得た知識・経験を基に、薬剤師国家試験を見据えた教育、特に高校化学から大学化学への橋渡し教育や、化学のリメディアル教育に取り組んでいきたいと思ひます。そして、「化学を活用できる」薬剤師の輩出を目指したいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



薬学部 薬学科 准教授 服部 しのぶ

本年4月より、薬学部薬学科へ着任いたしました。3月まで藤田医科大学で、医・看護・放射線・リハビリテーション・検査・医療経営情報学専攻の学生に英語を教えてきました。昨年度は、本学薬学部へ非常勤講師として参っておりました。英語教育をとおして学生さんに、外国人患者対応を迫られた時に自分の持っている力で対応できるコミュニケーションスキルを身につけてほしいと願っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



薬学部 薬学科 准教授 森 尚義

本年4月1日付けで薬学部薬学科准教授に着任いたしました。これまで、長く薬剤師として公立病院に勤務し、行政機関で薬事行政にも携わりました。担当科目は薬事関連法規です。臨床と行政の両方の経験を活かし、医療行為の法的な位置付けと、その責任の重さを共有したいと考えています。もちろん、厳しさだけではなく、これを超える楽しさも伝えてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



薬学部 薬学科 助手 田中 章太

本年度より薬学部薬学科 病態・治療学分野の助手として着任いたしました。昨年度までは神戸薬科大学に勤務し、大腸がんの新しい薬物治療法や抗がん剤効果予測法を開発するための研究を行っていました。本学では、これまでの経験を活かし、研究はもちろん、教育にも尽力させていただきます。少しでも皆様のお力になれるよう、誠心誠意努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



看護学部 看護学科 教授 門脇 文子

昨年度末に三重大学を定年退職し、本年4月より看護学部看護学科基礎看護学特任教授として着任いたしました。これまで基礎看護学についての教育経験はありませんが、臨床における看護管理実践、臨床研修キャリア支援センターでの人材育成の経験を活かして、看護の基礎教育に貢献したいと思ひています。皆様方のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



看護学部 看護学科 教授 倉田 節子

本年4月より看護学部看護学科に着任いたしました。担当は小児看護学です。これまで看護系大学で看護教育、研究者の育成に携わってまいりました。研究では、短期入院の子どもと家族への看護、小児看護初心者の教育担当者への支援、配置転換した看護師のキャリアマネジメントなどに取り組んでいます。これまでの経験を活かし、学生に看護の魅力伝え、共に学んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



看護学部 看護学科 准教授 出石 万希子

本年4月より看護学部看護学科に着任いたしました。担当は母性看護学です。これまで助産師としての臨床経験を経て、看護基礎教育および助産基礎教育にも携わってまいりました。これらの経験を活かし本学では、幅広い視野を持ち対象を理解するための基礎力を備えた看護師の育成に尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



看護学部 看護学科 准教授 蓑田 さゆり

本年4月より、看護学部看護学科の教員として着任いたしました。これまでは学生とともに経済連携協定で来日した看護師候補生さんの看護師国家試験のサポートやその他ボランティアを行ってきました。研究では、日本で就業している中国人看護師さんのワーク・エンゲイジメントと職場定着について取り組んでいます。学生教育では、今までの経験を活かし、学生の興味や関心の芽を伸ばせるよう努力してまいります。



看護学部 看護学科 助教 上田 祥子

本年4月より、看護学部看護学科の助教に着任いたしました。担当は成人看護学です。これまで、がんの患者さんを中心とした周術期医療から緩和ケアの現場まで幅広く臨床経験を重ね、その後は看護専門学校で看護教育に携わってきました。今までの経験を活かして、患者さんが治療期から人生の終焉までその人らしく生きるための支援について、学生とともに考えていきたいと思ひています。どうぞよろしくお願ひいたします。



看護学部 看護学科 助教 牛場 かおり

本年4月より看護学部看護学科に着任いたしました。担当は、在宅看護です。これまでの看護師としての臨床経験や大学院での学びを活かし、看護のやりがいや楽しさ、さらに、在宅看護の大切さを理解してもらえよう学生教育に携わっていきたくて思ひています。至らない点も多々あるかと思ひますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



大学事務局 庶務課 鈴木 祐莉加

昨年の11月より庶務課に配属となりました鈴木祐莉加です。豊田学長の秘書業務や大学の受付等をさせていただいております。常に周りの状況を把握し、臨機応変に対応できるよう努め、大学のさらなる発展に少しでも貢献できればと思ひております。皆様のご指導をいただき、日々精進して参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



大学事務局 庶務課 杉野 由佳理

本年4月より大学事務局庶務課に配属となりました杉野由佳理と申します。派遣社員として約3年間、勤務させていただいておりました。今後とも明るく丁寧に努めてまいります。まだまだ不慣れなことも多く、何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、本学の発展に貢献できるよう精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



大学事務局 就職・キャリア支援課 佐藤 はるか

昨年9月より、大学事務局 就職・キャリア支援課に配属となりました。大学では教育・言語学を学び、前職では新車の営業部に所属していました。いままでの経験を生かして、学生が自信を持って社会に出ていけるようなサポートがしたいと思っています。未熟な点多々あるかと思いますが、皆様と一緒に学生のために尽力し、本学をより盛り上げていきたいです。よろしくお願いいたします。



大学事務局 白子事務局 白子教務課 奥田 真由

昨年8月より白子教務課へ配属となりました奥田真由です。フットワークの軽さと大きな声が特徴です。白子教務課の業務は覚える事が沢山ありますが、先輩方からご指導をいただきながら毎日奮闘しています。困った時は白子教務課へ相談に行こう！と思ってもらえるよう、いつでも笑顔で元気よく丁寧な対応を心がけていきたいと思っています。至らぬ点多いと思いますが、本学の発展や学生の学びへの導きに微力ながらも貢献できるように頑張ってお参ります。



「マンボウの話」

テレビですっかり有名人になった新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身会長が記者会見で、「マンボウ」、「マンボウ」って盛んに言ってたけど、初めは何の事か分からなかったよ。「マンボウ」って聞いて、おじさんの的に最初に思い浮かんだのは、若い頃読んだ北杜夫のエッセイ集「どくどくマンボウ航海記」の表紙に描かれた、ぷかぷか浮かぶ魚のマンボウの絵だった。次に、ラテン音楽のマンボで、やっぱり若い頃に聴いた「闘牛士のマンボ」の「うー、マンボ！」だった。若い人は知らないよね。「一体いつの話なの？」って言われそうだけど、昔むかしと言うことにしておこう。昔々のことだから、年配の尾身会長には「マンボウ」は馴染みのある言葉だったんじゃないかな。結局、尾身会長の「マンボウ」は「まん延防止等重点措置」の略語「まん防」だったんだけど、「まんぼう」と言うのはあまりに緊張感に欠けるというので、マスコミも政府も使わないようになったんだとか。当然と言えば当然かもね。

ところで、「まん延」だけど、漢字では「蔓延」って書くんだ。「蔓」という字が常用漢字じゃないんで、ひらがなで「まん延」と書くのが決まりらしい。でも、今はパソコンとかスマホの時代なので、「蔓延」と漢字にしたほうが便利で分かりやすいと思うんだよね。漢字で書けば、自然に意味も分かるしね。

「蔓」は「つる」で、蔓延は、「蔓草が伸びて広がること」から、病気や悪習などが広がるという意味になったんだとか。

先日、テレビである人が言っていた。「まん延防止って、もう充分まん延しとるやん」分かるわかる、まん延って、どこまで広がればまん延なの？ 見方によっては、まだまだまん延には至っていないとも言えちゃうし、もうまん延だよとも言えちゃう。どこからがまん延だか分からないんだったら、「まん延」なんて言葉は使わないほうがいいんじゃない。

まん延防止等重点措置は感染状況が「ステージⅢ」になったら検討し、緊急事態宣言は「ステージⅣ」になったら検討するらしい。でも、感染状況の指標の表を見ると、ステージⅡ～Ⅳには「感染まん延期」になってるんだ。ステージⅡから「まん延期」なのに、ステージⅢになったらまん延防止を検討するって意味不明、何かおかしいよね。「もう充分まん延しとるやん」と言ってた人の気持ち、よ〜く分かるよ。感染状況の指標の表のほうの使い方が正しいんじゃないかな。「まん延」って、広がればまん延なんだから、感染者が増えてから、まん延防止って言われても訳わかんないよね。

あ〜あ、もう「まん延」はいいから、おじさんの財布に万円充填措置をとってくれ〜！

鈴鹿医療科学大学附属「桜の森病院」が開院しました

本学は令和3年4月1日に鈴鹿医療科学大学附属「桜の森病院」を白子キャンパス内に開院しました。本院は、鈴鹿市医師会並びに地域在宅診療医療機関からの強い要請を受け、大学附属病院としては全国初の完全独立型緩和ケア病院として誕生しました。

開院に先立ち、このほど3月14日(日)に完成を記念して施設内見会を開催しました。ご尽力いただいた鈴木英敬三重県知事、末松則子鈴鹿市長、二井栄三重県医師会長、尾崎郁夫鈴鹿市医師会長と、本学より高木純一理事長、豊田長康学長、渡部秀樹病院長によるテープカットで完成を祝いました。14日および20日～21日の施設内見会には多くの方にご参加いただき、本院に対する期待の高さをうかがい知ることができました。

今後は地元医師会や地域の医療機関との連携を密にし、患者さんに寄り添ったケアのできる病院を目指します。また、学生の実習施設としても活用し、多職種が関わるチーム医療を学ぶ貴重な教育の場にもなります。多職種による包括的医療で患者さんご家族のQuality of Life (QOL) の向上を図り、地域に根差した病院になるよう努めてまいります。



<附属桜の森病院>



桜の森病院の外観



一般病室



ラウンジ

行事予定

2021年5月～8月

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 5月6日(木) 創立記念日・木曜授業日 | 7月3日(土) 補講日 |
| 15日(土) 補講日 | 10日(土) 夏のオープンキャンパス(第2回) |
| 22日(土) 補講日 | 15日(木)・16日(金) 前期定期試験 |
| 27日(木)・28日(金) 春期定期試験と解説 | 17日(土) 補講日 |
| 6月1日(火)・2日(水) 春期定期試験と解説 | 20日(火)・21日(水) 前期定期試験 |
| 5日(土) 補講日 | 26日(月)～29日(木) 前期定期試験 |
| 7日(月) 春期定期試験と解説 | 30日(金)～8月5日(木) |
| 12日(土) 補講日 | 前期・夏期定期試験と解説 |
| 19日(土) 夏のオープンキャンパス(第1回) | 8月6日(金) 夏のオープンキャンパス(第3回) |
| 26日(土) 春期追・再試験 | 7日(土) 夏のオープンキャンパス(第4回) |
| | 7日(土)～9月7日(火) 夏季休業 |
| | 7日(土)～17日(火) 夏季一斉休暇 |
| | 23日(月)～27日(金) 前期・夏期追・再試験 |

※上記予定は変更になる場合があります。サマスポおよびホームページで最新情報を確認してください。